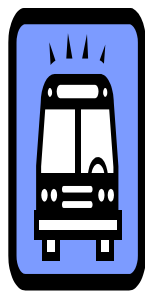




国労東北自動車支部

第26回全国自動車協議会



定期委員会開催

東京

11月12日(火)から2日間の日程で第26回全国自動車協議会定期委員会が東京・品川区立総合区民会館で開催され、全国から28名の仲間が参加、活発な討論が行われた。また、委員会前段には神奈川人活問題等これまで共に闘ってこられた国労弁護団の岡田 尚弁護士より「雇用形態のいろいろと賃金格差とどう闘うか」と題した講演がされ、私たちが今後取り組むべき課題について貴重な意見を話された。

他人事でない

JR北海道問題

冒頭、野々口議長より「3月に国交省の諮問機関がまとめたあり方検討会は深夜バス労働者の本来的なあり方に切り込むものではなかった。国労の任務は増々重要であり組織拡大が必要」と挨拶。国労本部からは小池業務部長が来られ「JR北海道問題は憂慮すべき問題。データの改ざんなどで政府も悪質とみている。本部も安全対

策委員会を設置。聞き取り調査をはじめシンポジウムを開催し取り組みを強化している。JR北海道は国労敵視政策をとり北鉄労(JR総連)を優遇してきたが、今回の事件以降対応は改善されている。北海道の事故は規制緩和による検査周期の延伸や110km/h制限を130km/hで走行などそもそも問題があった。貨物問題と同様『分割・民営化』の弊害で破綻している」と情勢

発 責
北山修司
編 責
教 宣 部
NO,10
2013.11.25



報告がされた。(以下、主な意見)

東北・60歳になると400〜500キロ走行は疲れる。出向者の事故が多く対策しろと上から言われ頭にくる。地方から人を集めて転勤で仙台にやられる。仙台は夜行便1人乗務。高齢で本当にやれるか現場長に聞いても答えられない。組合の違いを超えて労働条件をどうするか取り組んでいきたい。

関東・組合掲示板を要求したら、現場長が快くよこした。東労組組合員は常に見ている。

2013年度新役員

議 長	野々口 善之	【西日本】
副議長	丸山 知一	【関東】
事務長	佐藤 功和	【北海道】
	小栗 夫	【東海】

・三ヶ日 助勤 11日間が3日間に改善された。
・車両の効率化により車両故障、路上故障が

多くなって代替ない場合、タクシーで対応している。休日出勤は東京、館山でこれまで買い上げだったのが代休処理になる場合があり、賃金抑制になっている。

東海・乗務員がインターチェンジを過ぎてしまい3mバック。会社に報告せず。乗客が会社に知らせ会社はプレス発表した。日勤2日間、10日間の出勤停止処分。他労組だが本人にやめるなど激励した。経協で会社に対し報告できない職場環境にある事を考えてほしいと言っている。

西日本・庸車制度を試験的に昨年実施。新高速バス制度移行、関東方面は常に満席状態で続行便対応など要員不足になっている。会社は要員を補充せず庸車委託を行っているが今後拡大するのではと危惧している。

中国・平成16年以降の採用者とこれまで昇進しなかった社員で基本給16万円の人限定でベースアップ5000円を会社が提示。一方、事故を起こした社員の罰則強化・ポーンスカットの対象拡大など就業規則の改定も提示され、とても受け入れられる内容でない。要員不足も蔓延し13日連続労働の人もいる。デジタコの労務管理も厳しい。